

日大土木会会報

発行：日大土木会広報部会

〒101-8308
東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部土木工学科内
TEL：03-3259-0662
FAX：03-3293-3319
http://www.nu-dobokukai.com

日大土木会 新会長に 生産工・土木卒 佐伯 謹吾 氏



新会長に就任した佐伯謹吾氏

平成三十年度の通常総会（平成三十年六月二十八日開催）において、本会の新会長に生産工学部土木工学科・昭和四十五年卒業の佐伯謹吾氏（東京設計事務所・元東京都下水道局）が西松好郎会長の後任として就任されました。任期は二〇二〇年までの二年間です。

「日大土木会の皆様へ」
佐伯 謹吾

佐伯謹吾新会長に日大土木会の会員の皆様方へメッセージをいただきましたので、会報において紹介させていただきます。

員の皆様の期待に応えられるよう尽力して参りますので、ご指導の程よろしくお願いいたします。

日大土木会は、平成十二年に山田清臣先生、森元峯夫様、故松田慎一郎様、竹澤三雄先生、盛武建二様、西松好郎様の歴代会長や諸役員の方々の経験や体験等を在学生会先輩方が築き上げてこられ、本年日大土木会は創立二十周年目を迎えております。母校日大土木への各種支援事業を各部会の活動を通じて行い、在学生の教育支援のための講演会、卒業生による研究会等を開催、その他、日大土木会会報の発行、ホームページによる情報発信、各学科には教育補助費等による支援などを行っております。

二〇二〇年（令和二年）に「日大土木」は「創設百周年」の節目の年を迎えます。

これまでに多くの諸先輩が築いてこられた「歴史と伝統」を継承することが、日大土木会の使命の一つであると考えております。すなわち会員の方々の経験や体験等を在学生会に伝えることにより、いかに土木工学が社会でいかに貢献しているか、大切かを知らせることが伝統を守ることであり、引き続き土木系三学部四学科の学生の支援を各学科との連携を一層深めて活動していきたいと思っております。

にして、各学科のさらなる一層の発展を支援していきたいと思っております。

最後になりましたが、皆様方の本会への更なるご指導・ご協力をお願い申し上げます。日大土木会・会長就任の挨拶とさせていただきます。

土木系各学科 主任教授 挨拶



毎年恒例となりましたが、本学土木系三学部四学科の主任教授の先生方より、本会会員向けに挨拶文をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

昨年より主任教授が変更になりましたのは、理工学部土木工学科教室主任で、梅村靖弘先生から中村英夫先生に交代となっております。その他の各学科の主任は昨年引き続き務められております。

なお、各学科へは、毎年本会より教育補助費を贈呈しており、学生の支援に役立てていただいております。



理工学部 土木工学科 主任 中村 英夫

昨年十月より理工学部土木工学科ならびに土木工学専攻の教室主任を務めております中村でございます。日大土木会の会員の皆様はじめ多くの校友の皆様には、日頃より土木教室の教育・研究活動並びに学生の就職に多大なるご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、土木工学科の近況についてご報告させていただきます。この四月には新一年生二一八名、博士前期課程八名ならびに博士後期課程一名の学生を新たに迎えることができました。一方、就職につきましては、皆様方の多大なご指導・ご支援により好調に終えることができ教員一同深く感謝しております。三十九年度は、博士前期課程十七名、学部二二六名が卒業しました。業種別の主な内訳は、公



駿河台キャンパスの新校舎 タワー・スコラ
(手前側にニコライ堂、3、7号館が見える)

役員八一名(33.3%)、建設業九八名(40.3%)、コンサルタント三名(9.5%)、運輸一〇名(4.1%)、大学院進学九名(3.1%)となっており、その他の各方面にも多くの学生を送り出すことができました。

教育面における日大土木会からの支援の中で、例年、終始論文発表優秀者に対して「日大土木会奨励賞」を授与していただいております。平成三十年度は三名が受賞し、三月二十五日の学位記伝達式に際して賞状と副賞の贈呈をしていただきました。受賞者名と論文題目は次のとおりです。池端宏太「時間領域のインパルス応答によるコンクリート構造物の内部欠陥探査」、近藤綾太「斜面の安

定に及ぼすアーチ作用と破壊機構の影響」、田中直哉「階段状水路のステップ水平部に設置された棧がskimming flowの水理特性に与える影響」。このような奨励賞のお陰をもちまして大学院生の研究活動におけるモチベーションも高まっております。毎年、学会等外部発表において優秀発表賞を受賞するなど活躍しております。あらためて御礼申し上げます。また、小田憲一助教(材

料力学)が再任されまことに、新たに中村勝哉助手(地盤力学)、佐藤柳言助手(水理学)が着任されました。加えて、海外派遣研究員として米国テキサス大学に1年間滞在していた長谷部寛准教授(応用力学)が三月末に帰任されております。初年次教育の重要性が増している中、専門以外にも測量実習や各種演習等で若い教員も交えながら基礎力と実践力を兼ね備えた学生の育成に努めて参ります。

昨年夏には駿河台キャンパスに新校舎タワー・スコラが完成し、土木教室の研究室は10階、11階に、実験室は地下2階に移転しております。是非お立ち寄りいただけます。是非お立ち寄りいただけます。今後

とも引き続き皆様のご支援ご鞭撻をいただけますようお願い申し上げます。

教室の動きとしましては、齊藤準平助教が准教授へ昇格されました。また、本年度より客員教授として東北大学大学院教授の桑原雅夫先生をお迎えして、大学院の教育研究活動のさらなる充実を図るとともに、学部におきましても引き続き、教育の質を維持して良い卒業生を送り出したいと思っております。

卒業生の動向ですが、昨年度は日大土木会の皆様方のお陰をもちまして、一昨年度同様決定率100%となっております。

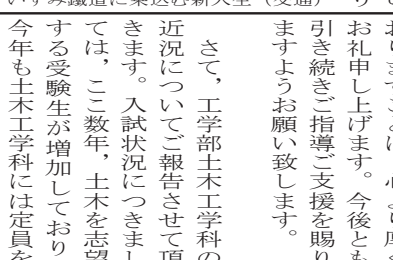
理工学部
交通システム工学科
主任 峯岸 邦夫

交通システム工学科は、皆様ご存じのように学科創設以降、「土木のわかる交通技術者」の養成を軸に教育研究活動を行って参りました。社会の要請にこたえるべく、常に教育内容の改善に務めて参りましたが、平成二十五年四月に学科の教育内容をより鮮明にあらわした交通システム工学科へ学科名称を変更いたしました。今年度は124名の卒業生を送り出すことが出来ました。これも、日大土木会をはじめ関係各位のご支援ご協力をお陰であります。この紙面をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

一方、新入生につきまして、112名の入学者を迎えました。早速、四月二十日には、新入生歓迎オリエンテーションを実施しました。今年度は、本学科OBの古竹孝一

氏が昨年十一月より代表取締役に務めています『いすみ鉄道』を利用して、新入生6名と教員、大学院生各1名がチームとなり、サイコロを転がし大多喜駅を起点として上り、下りの方面と乗車する駅数を決めて列車の旅を楽しみ、下車駅では駅周辺を散策してチーム内の交流を深めました。駅周辺の散策で得られた情報は、交通システム工学インセンティブ講義内のグループワークで利用する予定です。なお、散策に先立ち、大多喜町役場において飯島勝美町長、宇野輝男教育長(本学物理学科卒)より歓迎の挨拶を頂き、古竹孝一社長には新入生に向けて講演をしていただきました。

卒業生の皆さんへご連絡です。教室では、随時、同期会、研究室のOB・OG会開催の支援をさせていただいております。教室では、随時、同期会、研究室のOB・OG会開催の支援をさせていただいております。



さて、工学部土木工学科の近況についてご報告させていただきます。入試状況につきましては、ここ数年、土木を志望する受験生が増加しており、今年も土木工学科には定員を

新入生に話をする古竹孝一氏 (いすみ鉄道)

いすみ鐵道に乗込む新入生 (交通)

工学部土木工学科並びに土木工学専攻の主任を務めております渡邊でございます。主任三年目となります。日大土木会の会員の皆様をはじめ多くの校友の皆様方には、工学部土木工学科の教育研究活動、並びに学生の就職支援に多大なご支援ご指導を頂いておりますことに、心より厚くお礼申し上げます。今後とも引き続きご指導ご支援を賜りますようお願い致します。

ます。大学での開催をご検討されています卒業生の方は、教室にご相談下さい。

工学部土木工学科
主任 渡邊 英彦



アコンカグア登頂に成功した綿貫さん

上回る新入生が入学し、全ての学年で定員を大きく上回る学生数となっています。平成三〇年度の就職状況は校友の皆様方のご支援により非常に好調で、就職率100%を7年連続で達成しました。工学部卒業の新人が先輩方の職場に配属されることもあるかと思えますので、その節はご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

人事関係では、古河幸雄教授(再雇用)が3月末で退任となり、今年度は非常勤講師として来て頂いております。新採用者は助教として前島拓先生をお迎えしました。前島先生は工学部土木工学科卒業後、大学院工学研究科博士前期課程・後期課程を修了し、民間企業を経て、工学部採用となりました。道路工学と測量関係を担当します。昇格人

事では、仙頭紀明先生(地盤工学)が教授、笠野英行先生(橋梁工学)と手塚公裕先生(水理学)が准教授に昇格されました。学生の活躍ですが、3月に土木工学科を卒業した綿貫毅さん(ワンダーフォーゲル部)が2月に個人で南米大陸最高峰のアコンカグア登頂に成功しました(左上写真)。アコンカグアは標高およそ5,000mで7大陸の中ではエベレストの次に高い山です。登頂率は入山者の3割程度で、成功率の低い山とされています。今年1月にはプロスキーヤーで登山家の三浦雄一郎氏が挑戦しましたが、ドクターストップにより登頂を断念するというニュースもありました。綿貫さんは2年生の春休みにはマウンテンバイクでオーストラリア大陸を横断した経験もあり、学生時代に二つのすばらしい挑戦を成し遂げました。

最後になりますが、工学部では毎年北桜祭の開催にあわせ、「母校を訪ねる会(二〇一九年十一月三日、日曜日)」を実施しています。今年度は、昭和四十四、五十四、平成一、十一、二十一年三月

の卒業生が該当します。該当される皆様方のご出席をお待ちしております。



生産工学部土木工学科 主任 小田 晃

さて、平成三十年度は生産工学部土木工学科で百九十九名、大学院前期課程で二十三名、大学院後期課程で二名の卒業生・修了生を送り出すことができました。学科の就職先の内訳は施工会社が約五割、建設コンサルタントが約一割、公務員が約二割とほぼ昨年度と同様の割合でした。しかし、大学院への進学者が昨年度よりも大幅に減少しました。この原因は就職状況が良好なためもありますが、学

部生への大学院の魅力や修了後の先輩方の活躍の周知不足もあげられます。今年度の検討課題です。また、昨年度は三名の大学院生が各学会から賞を受賞しました。受賞者氏名、題目は次の通りです。

土木学会の優秀講演者賞は青柳佳祐氏(改質アスファルト含有発生材の分別再材料化に関する基礎的検討)と中村聖馬氏(小型ハンマ打撃時の接触時間によるコンクリートの養生効果評価手法に関する研究)。

地盤工学会の優秀論文発表者賞は菅沼丈夫氏(粘性土のせん断波速度に与える繰返しせん断の影響)でした。また、教員では加納陽輔教授が秋葉正一教授、大学院生の赤津憲吾氏との連名で「水分解法を応用した旧アスファルトの性状回復技術に関する基礎研究」で土木学会舗装工學論文奨励賞を受賞しました。

今後このような賞を受賞できるよう、院生・教員とも日々研鑽してまいります。さて、平成三十一年度の入学生数は一九五名(内女子学生は十名)でした。昨年度に

比べて二十二名減少しました。また、女子学生も昨年度の二十九名から十九名減少しています。次年度の受験者数増加を目指して、生産工学部土木工学科では戦略的な高校訪問の実施と、中学生や高校

平成三十年度 通常総会開催報告



開会の挨拶をする西松好郎会長

平成三十年六月二十三日(土)、理工学部駿河台校舎一号館 四階 一四二教室において日大土木会・平成三十年度通常総会が開催されました。通常総会は、議事に先立ち、西松好郎会長からの挨拶がありました。引き続き、議長に神保廣光副会長(昭和五十二年・理工土木卒)が選ばれ、用意された各議案の審議が行われました。

比べて二十二名減少しました。また、女子学生も昨年度の二十九名から十九名減少しています。次年度の受験者数増加を目指して、生産工学部土木工学科では戦略的な高校訪問の実施と、中学生や高校

平成30年度 予算案

| 科目 | 平成30年度予算額 | 平成29年度決算額 | 備考 |
|-----------|-----------|-----------|--------------------------|
| 収入 | | | |
| 会費収入 | 1,000,000 | 754,693 | 年会費 |
| その他収入 | 150,000 | 93,003 | 総会費・利息他 |
| 前年度繰越収支差額 | 546,195 | 480,673 | |
| 収入合計 | 1,696,195 | 1,328,369 | |
| 支出 | | | |
| 事業費 | 600,000 | 442,126 | 総会・委員会・印刷製本・講演料・活動文庫・旅費等 |
| 管理費 | 600,000 | 340,048 | 消耗品・通信運搬・アルバイト等 |
| 予備費 | 0 | 0 | |
| 次期繰越金 | 496,195 | 546,195 | |
| 当期支出合計 | 1,696,195 | 1,328,369 | |

平成29年度 収支決算

(1) 収支決算総括表
(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

| | |
|-----------|-------------|
| 収入 | 1,328,369 円 |
| 支出 | 782,174 円 |
| 次年度繰越収支差額 | 546,195 円 |

(2) 収入の部

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 増減 |
|--------|-----------|-----------|----------|
| 会費収入 | 1,000,000 | 754,693 | ▲245,307 |
| 雑収入 | 150,000 | 93,000 | ▲57,000 |
| 繰入金 | 0 | 3 | 3 |
| 前年度繰越金 | 490,673 | 480,673 | 0 |
| 収入合計 | 1,690,673 | 1,328,369 | |

(3) 支出の部

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 備考 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 事業費 | 600,000 | 442,126 | |
| 会議費 | 100,000 | 100,000 | 総会懇親会 |
| 印刷製本費 | 105,568 | 105,568 | 会報等印刷 |
| 教育補助費 | 200,000 | 200,000 | 各学部教育補助 |
| ホームページ等 | 36,558 | 36,558 | サーバルメンタル等 |
| 2. 管理費 | 600,000 | 340,048 | |
| 消耗品費 | 52,386 | 52,386 | 事務用品・封筒 |
| 通信運搬費 | 270,583 | 270,583 | 総会案内発送 他 |
| 交通費 | 16,000 | 16,000 | 東京-郡山往復 |
| 会費 | 1,080 | 1,080 | 事務局お茶代 |
| 3. 次年度繰越額 | 457,455 | 546,195 | |
| 支出合計 | 1,657,455 | 1,328,369 | |

総会資料より (収支決算及び予算案)



昇格されました。また、野口博之先生が助手として新規採用されました。今後のますますのご活躍を期待するとともに、引き続き日大土木会の皆様のご指導・鞭撻のほどよろしく願っています。

項を示します。

【第一号議案】

(一) 平成二十九年度
収支決算報告及び監査報告
監査報告…重村智氏

(二) 事業報告(抜粋)
・会員数…二二〇〇名
・年度内入会…二名
・同 退会…二十五名
・同 死亡…一名

・三学部四学科への教育補助金の贈呈を実施(各学科五万円)
・会報(二十二号・二十三号)の発行、ホームページの内容更新

・特別講演会の実施
講師…梶山 修 様
(東急電鉄顧問)

「渋谷開発の事例から見た都市づくりの方向」
・学生向け就職支援に関する講演会の実施
・研究発表会の支援

(一) 平成三十年年度
事業計画(抜粋)
・名簿・会報(第二十四号)の発行
・ホームページによる情報の発信

【第二号議案】

(一) 平成三十年年度
事業計画(抜粋)
・名簿・会報(第二十四号)の発行
・ホームページによる情報の発信

・会則・細則の見直し
・特別講演会の開催及び在学生向けの就職支援に関する講演会等の実施
・三学部四学科への教育補助金の贈呈
・研究発表会の開催支援

【第三号議案】

(一) 平成三十年年度
予算案に関する件
(前頁表参照)

(二) 役員の変更
改選された本会の新役員は左上の表のとおりであります。なお、役員任期は二年間となります。

【第四号議案】

◎新任役員紹介(三名)
佐伯勤吾・昭和四十五年
生産工土木卒
一場 駿・昭和五十一年
理工交通卒
小田 晃・生産工土木卒
土木工学科主任教授
(敬称略・順不同)

また、これまで理事として本会を支えて頂きました鍋山博一様、島崎敏一様、伊藤義也様がご退任されました。これまでのご尽力にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

第五号議案の「その他」につきましては、事務局及び総会出席者からの提案はありませんでしたので、削除となりました。

すなわち、第一号〜第四号のいずれの議案とも満場一致で事務局の提案の通り承認されました。

以上が平成三十年度の通常総会の報告となります。

【第五号議案】

また、これまで理事として本会を支えて頂きました鍋山博一様、島崎敏一様、伊藤義也様がご退任されました。これまでのご尽力にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

第五号議案の「その他」につきましては、事務局及び総会出席者からの提案はありませんでしたので、削除となりました。

すなわち、第一号〜第四号のいずれの議案とも満場一致で事務局の提案の通り承認されました。

以上が平成三十年度の通常総会の報告となります。

【懇親会報告】

通常総会の終了後に、参加者による懇親会が、本会新会長の佐伯謹吾氏の挨拶、最年長者である清野茂次様(昭和三十一年理工・土木卒)の乾杯のご発声により開始され、終始和やかなムードで歓談が行われておりました。

懇親会の途中で土木系各学科の主任教授の先生方による

学科近況報告(就職状況・入学試験情報・教員の異動等)などもありました。

懇親会の閉会は、昭和四十年卒業の山口泰男様の締めにより、盛会のうちに無事終了となりました。

特別講演会
開催報告

通常総会に引き続き、十六時半より、一四二教室において企画部主催の特別講演会が開催されました。

今回の講演者は、本会副会長でもある東急電鉄(株)顧問で元東京都都市整備局局長の梶山修氏(昭和四十四年、

理工・土木卒)を迎えて「渋谷開発の事例から見た都市づくりの方向」と題して約三十分にとり講演をしていただきました。

都内でも際立ったIT企業が集積している街「渋谷」。この渋谷に東急グループが手がける新しいまちづくり「渋谷キャスト」・「渋谷ストーリー」のコンセプトや開発構想などを紹介いただき、今後の新しいまちづくりの方向性(可能性)についてスライドを用いて詳しく話をいただきました。

報告となつてしまいました。皆様方にはお詫び申し上げます。

また、好評をいただいております土木系各学科の主任教授からの近況報告等も一緒に今号に掲載いたしました。

なお、本会報並びに本会に対するご意見・ご要望等がありましたら、お気軽に事務局までご連絡お願いします。

連絡方法については、手紙・FAX・電子メールのいずれで送っていただいても結構です。皆さんの意見を反映させていきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

また、皆様のお近くのお知り合いで日大土木会に入会希望者がおられましたら、入会申込書類を送りますので、事務局にお知らせ願います。

皆様方の積極的なご協力を期待しております。

(S・K)



特別講演の会場の様子



特別講演講師の梶山修氏

会報第二十五号は通常総会の報告号として昨春秋の発行を予定しておりましたが、諸般の事情により半年遅れて完成しました。従いまして令和元年度の総会を前に平成三十年度の通常総会及び懇親会の

報告となつてしまいました。皆様方にはお詫び申し上げます。また、好評をいただいております土木系各学科の主任教授からの近況報告等も一緒に今号に掲載いたしました。なお、本会報並びに本会に対するご意見・ご要望等がありましたら、お気軽に事務局までご連絡お願いします。連絡方法については、手紙・FAX・電子メールのいずれで送っていただいても結構です。皆さんの意見を反映させていきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。また、皆様のお近くのお知り合いで日大土木会に入会希望者がおられましたら、入会申込書類を送りますので、事務局にお知らせ願います。皆様方の積極的なご協力を期待しております。



(S・K)

皆様の積極的なご協力を期待しております。